

アナジャコの異常発生

企画開発課 渡辺昭生

平成3年3月19日に松山市漁協より、温泉郡中島町二神島周辺にシャコが大発生し底びき網漁業の操業に支障が生じているとの通報を受けました。このような情報はいろいろ考えるより、とにかく現場に行き情報を得るのが先決と考え、早速底びき網漁業者に連絡を取り、シャコを持って帰ってもらうようにしました。翌朝漁業者に持って帰ってもらったサンプルを見ると、一般に言うシャコではなく、アナジャコでした。また、発生域は、二神島南西の水深30から50メートルの海域で、この海域を夜間操業するとアナジャコが大量に入網し(聞き取りの情報によると1曳網当たり数十キロ)、網が目詰まりして操業の効率を著しく低下させるとのことでした。ベテランの漁業者の方でも、こんなことは初めてのことだったそうです。

アナジャコとはシャコと言うものの、いわゆるシャコとは分類上大きく異なり、むしろヤドカリに近い仲間です。一般にアナジャコは浅い海域に穴を掘ってその中で生息していると考えられています。しかし、当海域は比較的深い海域であり、底質は荒い砂質でアナジャコが普通に生息する海域とは思えませんでした。そこで、水中テレビカメラを海底に降ろしアナジャコがいるかどうか調査したところ、やはり、生息するような穴は見つけられませんでした。大きな潮の時にアナジャコが多く漁獲されることより、周辺の浅海域に生息しているアナジャコが、

この海域に集合するのではないかと予想しました。そうこうしている間に、急速にその量が減少し、4月中旬には姿を消しました。結局分からなことが多く残されたままとなりました。

近年、内海において今回の例のように、ヒトデやオカメブナなど、特定の生物が異常に発生する現象が多く見られます。これらの現象は私達が把握していない環境の変化を代弁しているのではないのでしょうか。このようなことを調査することは、現在直接役にたたないかもしれませんが、永続的に漁業を目指すとき、必ず重要な資料になると確信します。過去に見られなかった異常現象が見られた場合は是非とも水産試験場に御一報ください。



アナジャコ (異尾類アナジャコ科)

新日本動物図鑑より